

富雄北小学校3年生の学習教材 ビデオ『校区探検』

①校歌からひもとく富雄 ②富北小のまわりの様子

令和3年(2021)1月制作

校歌からひもとく富雄

富雄北小学校は明治12年(1879)に二名尋常小学校として、杵築神社の辺りに建てられた。現在の場所に移ったのは昭和8年(1933)で右写真がその頃の富雄北小学校です。校舎も周りの様子も今とはずいぶん違っています。でも今と変わらず学校の前には富雄川が流れています。

校歌に「歴史に古き富雄川」、「東に青き奈良の山」、「雲間に高き生駒山」と歌われています。富雄川は聖徳太子の時代からお目出たい川として歌われています。東に青き奈良の山：春日山、平城宮跡もあり、日本の中心でした。生駒山は百済(今の韓国)から約1ヶ月かけて船に乗って生駒に来た時、疲れ果てた馬が生駒の草を食べ元気に生き返った由来があります。



昭和8年(1933) 富雄北尋常小学校



昭和初期 月見橋付近



昭和10年代二名付近尾農村風景

富北小のまわりの様子

富雄北小学校ができた頃学校の周りには田畑が広がっていました。富雄川の水を利用して作物を育てており、中でもお米は生駒米と呼ばれ、その美味しさからお酒の原料や寿司のお米として、大阪や京都へ出荷されていました。明治44年(1911)のイタリア万国産業博覧会では金賞受賞したほど世界に誇れる特産品だった。今でも小学校の周りで、ため池や水路があります。これらは、この辺り一帯に田畑が広がっていた時の名残であり、今でも田んぼに水を送るために使われています。田畑や小山の緑が広がる風景は、住宅用に土地開発が始まる1960年頃まで多く残っていました。

昔、富雄川の両岸に桜の木が植えられていた。ところが、町の整備のため川の土岸工事をした時にほとんどが抜き去られた。ただ、小学校の前に1本だけ桜の木が残った。当時の住民が小学校の前だけは残してやってほしいと願い出た。今でも春には新入生を迎えている。

昔から変わらぬものと、もう無くなってしまったもの、そして新しくできるもの、それらが積み重なって富雄の風景をつくっています。皆さんが大人になった時にはどんな町になっているのでしょうか。



昭和42年(1967)富雄・河西橋付近